

回復期リハ退院時の住宅改修についてのアンケート調査
～より効果的な住環境設定に向けての取り組み～

南東北春日リハビリテーション病院
リハビリテーション科
○本間一成、安部里美、長谷川由佳、
根本悠平、平野雄三

【はじめに】

回復期リハビリテーションにおいて、住宅改修指導業務は退院後の生活環境を左右する重要な業務として位置付けている。その一方で、退院後の住環境については把握できておらず、実際の住環境設定が適切であったかは疑問が残る。そこで住環境設定の妥当性について、アンケート調査・検討した。

【方 法】

平成 18 年 4 月～平成 22 年 3 月までの間に当院を退院し、在宅復帰した脳卒中患者のうち追跡可能だった 302 名に対して郵送によるアンケート調査を実施した。得られた回答数は 134 名であった。（有効回答率 43.7%、男性 73 名、女性 61 名）アンケート内容は①住宅改修の有無②改修場所③不使用箇所④不使用理由⑤改修希望の有無⑥改修希望箇所である。

【結 果】

①改修の有無

：改修あり 77 件（57.5%） なし 57 件（42.5%）

②改修場所（延べ 206 件）

：トイレ 53 件・浴室 42 件・その他 111 件

③不使用箇所（延べ 15 件（全件数比 7.3%））

：トイレ 3 件・浴室 3 件・その他 9 件

④不使用理由（13 件）

：状態の悪化 8 件・改修の不備 5 件

⑤改修希望（47 名）

：希望有 12 名（25.5%） 希望無 35 名（74.5%）

⑥希望箇所（延べ16件）

：浴室5件・トイレ4件・玄関3件・その他4件

【考 察】

当院での住宅改修は対象者の約6割が実施しており、93.3%が現在も使用している。一方で不使用となっているケースも存在しており今後の更なるサービス向上の為に今回のデータを貴重な意見と捉える。改修場所の多くはトイレ・浴室に集中しており、また不使用となりうる場所でもある。このことから、回復期脳卒中患者においてのトイレや浴室の改修に関しては特に配慮すべき点と言える。不使用理由に関しては改修不備に加え、状態の悪化が多く挙げられた。また併せて未改修者の4分の1が改修を希望しており、適切な住宅改修指導は勿論、退院後の関係機関との密な連携に基づいた継続的な環境評価が必要となる。